

独語学独文学専攻

人材養成および教育研究上の目的

独語学独文学専攻においては、独語学・独文学の各分野においてカリキュラムに基づき、学生の適性と能力に対応したきめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では、独語学、独文学に偏することなく人間の精神の営みとドイツ文化の特性を視野に納め、講義と演習を通して研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、社会諸方面の要請に応えることのできる専門的人材を育成することを目的とする。博士課程後期では前期課程で培った専門的能力をより錬磨させ、体系的な研究業績の達成はもとより、国際的に通用する高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

独語学独文学専攻では、

<博士課程前期>

1. 学士に要求されるドイツ語の運用能力を十分に習得した上で、さらにその涵養に意欲を持つ人
2. ドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観に関する理解をさらに深化させたいと考えている人
3. 独語学、独文学、日独比較文化を基軸とした専門性の高い研究に取り組む意欲のある人
4. 高度な能力と専門的な知識を活かしながら国際社会における異文化理解に貢献したいと考えている人

<博士課程後期>

1. 博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、蓄積してきた研究成果をいっそう広げ、深めようという向上心・探究心を持つ人

を求める。一般入学試験や社会人入学試験、外国人留学生入学試験により、学問及び社会に貢献しうる将来性を持つ学生を幅広く受け入れる。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

独語学独文学専攻の博士課程前期 1 年次では、ドイツ語、ドイツ社会・歴史・文化を対象とした体系的な科目である各種「特殊講義」（ネイティブによるドイツ語授業も含む）及び「特別講義」を横系として、多角的に問題点を浮き彫りにし、課題へのアプローチ



方法を身につけます。縦糸にあたる「演習」では、受講者が自らの研究課題を積極的に発見し、研究方法を具体的に体得していきます。2年次には、引き続き「演習」を通して自らの研究を深め、その成果を「修士論文」において公表します。

博士課程後期では、3年間にわたる「特別研究」において、指導教員の個別指導を受けながらさらに高度な知見を得るべく、自らの課題を追求します。研究成果は随時『大学院論集』等の学術雑誌で公表します。高い専門性を持つ「特論」や、必要に応じて外部から招聘される非常勤講師による講義の内容も活かして「博士論文」の作成を進め、研究者としての自立を目指します。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

独語学独文学専攻の博士課程前期では、所定の単位の取得と厳格な審査による修士論文の合格判定により、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に修士（文学）の学位を授与する。

- ・ 高度なドイツ語の運用能力を身に付け、ドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観に関する深い理解を有すること。
- ・ ドイツ語及びドイツ文化に関する自らの研究課題を発見し、その課題へのアプローチ方法及び問題解決への道筋を明快かつ説得力のある論文で明示する能力を身に付けていること。
- ・ 高度な能力と専門的な知識を活かしながら国際社会における異文化理解に貢献する素地をもっていること。

博士課程後期では、所定の単位の取得と厳格な審査による博士論文の合格判定により、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に博士（文学）の学位を授与する。

- ・ 専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、研究者として自立した活動ができること。
- ・ ドイツ語を用い、独自の見解を論文で明示する能力を備えていること。
- ・ 専門分野において後進を指導し育成する資質や指導力を身につけていること。

